

中学受験専門塾家庭学習研究社の下部組織

～小3の1年間で受験学習への対応力を育てます～

講座1 ジュニアスクール

To get the glory, step up now.

「楽しい授業」を起点に、毎日の「家庭学習」を定着させます。

通学は週1回で、指導教科は算数と国語です。授業時間はどちらも40分。授業日以外、家庭学習用のプリント(ホームワーク)に取り組んでいただきます。授業で、基本となる考えかた、勉強の面白さを学び、家庭学習で学力の定着、学習の習慣づけをはかる。このような循環を通して、3年生の1年間で中学受験対策の学習に無理なく対応できるよう学力を築いていきます。

しかしながら、ジュニアスクールのよさは何と言っても「授業の楽しさ」にあります。週1回の指導は、「勉強とは楽しいものだ」という観念を浸透させることを意図するからです。勉強を肯定的に受け入れた子どもは、先々も学びに前向きな姿勢を失うことはありません。

小3
三篠校・己斐校
広島校・五日市校

併設
ホームワークコース
小1～3
(p10参照)

指導のねらい 中学入試突破を見通し、豊かな“伸びしろ”を育てます。

1 学習に“快”の感情をもった子どもを育てる

豊かな伸びしろは、勉強に“快”の感情を抱いてこそ育ちます。早くから子どもに多くの学習を課したり、難度の高い課題を押しつけたりすべきではありません。

ジュニアスクールでは、毎回の授業を通して子どもたちに新たな発見を提供し、勉強の楽しさや奥深さを体感させていきます。こうした授業を通して、勉強に“快”の感情を浸透させた子どもは、中学受験を難なく突破するだけでなく、先々まで勉強に前向きな姿勢を失いません。

2 “基礎・基本”をしっかりと身につけた子どもを育てる

いかなる高度な学問も、確かな基礎・基本を抜きにしては成り立ちません。中学受験対策の学習も同様で、まずは土台づくりが肝要です。

ジュニアスクールでは、早期から難問に手をつけるのではなく、学習単元の骨格をなす基礎・基本の理解と運用力育成を主眼に置いて指導します。こうして身につけた学力は応用が利きます。中学受験対策の学習に無理なく移行することができます。



3 確かな“学習習慣”を備えた子どもを育成する。

親はわが子に「もっと意欲を!」と願います。では、学習意欲はどうすれば育つのでしょうか。小学生の場合、学習の習慣づけも重要な役割を果たします。毎日の学習が定着すれば、だんだんと子どもは勉強の面白さに気づくようになるからです。

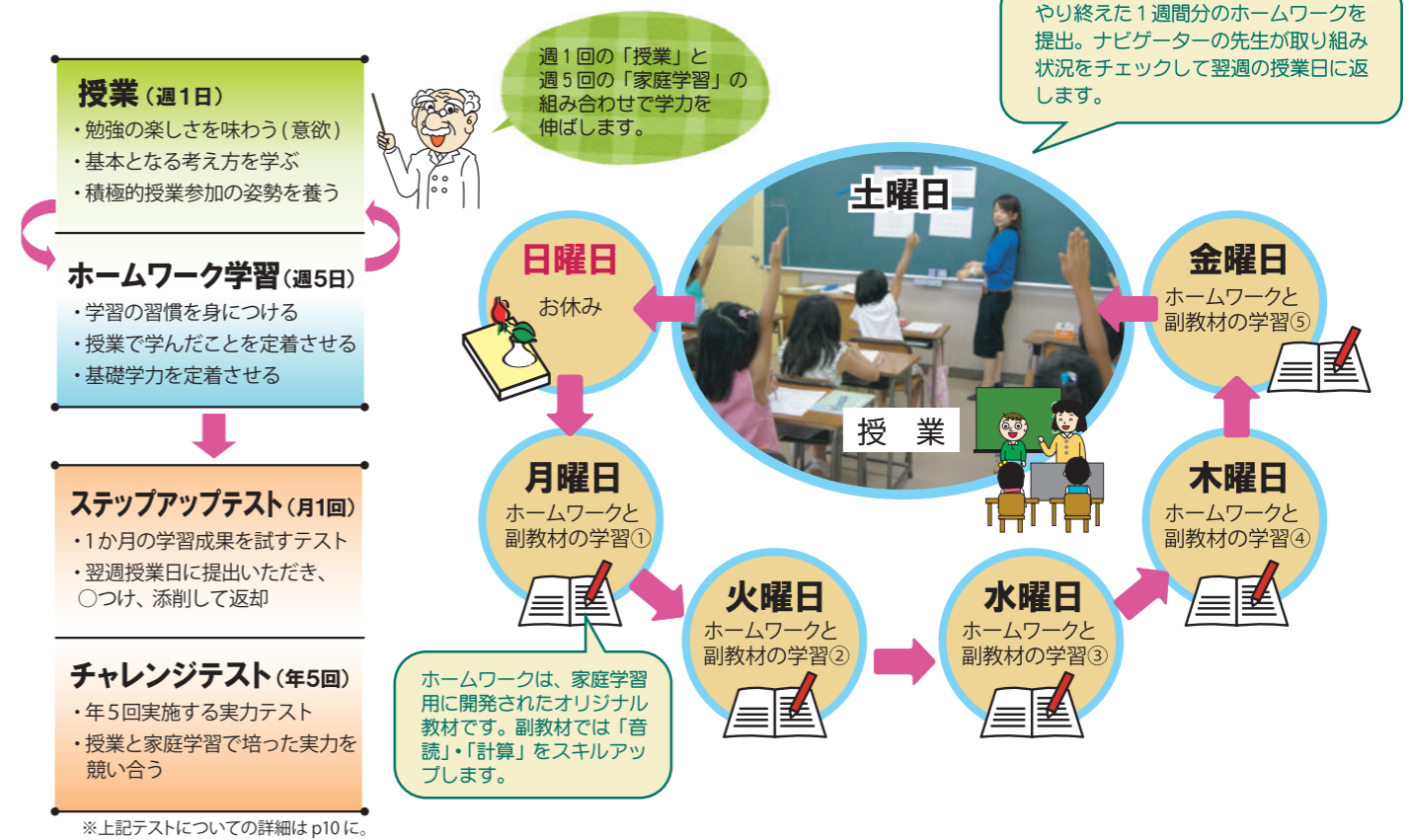
ジュニアスクール会員に配布するホームワークは、授業と連動した家庭学習教材です。毎日着実に取り組むことで、学力形成に不可欠な学びの習慣が備わります。中学受験での学力形成のみならず、中学進学後の知的成長を力強く支えてくれることでしょう。

4 集団授業に高い“適応性”をもった子どもを育成する。

日本の学校教育は、小学校から大学まですべて集団による授業形式で行われています。このような日本の教育事情を踏まえ、弊社では集団指導に高い適性を備えた子どもの育成に力を入れています (p5参照)。

ジュニアスクールにおいても、1クラス 15名までの少人数クラスで指導し、先生の説明や他の子どもの発言に耳を傾ける、発表の場で自分の考えをきちんと言えるなど、一人ひとりの積極的な授業参加の姿勢を育てるべく努めています。

学習のしくみと流れ 《 授業(土曜)+家庭学習 》



【週1回通学 クラス定員15名】

授業 80分

算数 40分

授業は、算数的な考えかたの育成や、算数のよさにふれる体験の提供に重きを置いています。そこで、教具を使った作業を多く採り入れ、五感を稼働させながら理屈の上でも感覚的にも理解を深めていける授業を実践しています。そのせいでしょいか。授業中の子どもたちの目は輝き、新たな気づきや発見をすることの喜びに満ち溢れています。こうした学習体験を起点にして、家庭学習への積極的取り組みにつなげていけば、週1回の授業が大きな意味をもつことになるでしょう。



国語 40分

小学校低～中学年は、母国語の確かな遣い手になるための土台を形成する時期です。中学受験においても、国語力が全ての教科の学習に多大な影響を及ぼします。ただし、読みの練習や漢字の学習は家庭でもできることです。こうした学習は副教材の守備範囲と定め、授業では文章を読むこと、書くこと、話すことの楽しさを子どもたちに体感させることに重きを置いて指導します。具体物やカードを多用したメリハリのある授業は、子どもたちにも大好評です。授業後の子どもたちの笑顔、保護者の方々にも是非ご覧いただきたいですね (算数も同様です)。

